

- 2日 ○自販連、10月の国内新車販売台数を発表  
国内新車販売台数(含む軽)は、40万6,851台で前年比+29.2%と13か月ぶりの増加
- 米供給管理協会、10月のISM景況指数(製造業)を発表  
総合指数は59.3%と前月(55.4%)から上昇
- 4日 ○米商務省、9月の貿易・サービス収支を発表  
貿易・サービス収支(国際収支ベース)は△639億ドルとなり、前月(△670億ドル)から赤字額は縮小
- 5日 ○米連邦準備制度理事会(FRB)、米連邦公開市場委員会(FOMC)を開催(4日～)  
(1)政策金利の据え置きを決定(0.00%～0.25%)  
(2)声明文の主なポイント  
・インフレ率が持続的に長期目標を下回る状況では、インフレ率が平均して今後2%になり、長期間のインフレ期待が2%にしっかりと固定されるように、しばらくの間2%をやや上回るインフレの達成を目指す。FOMCは、これらの結果が達成されるまで、緩和的な金融政策を維持する見込みである  
・労働市場の情勢がFOMCの雇用最大化の判断と一致する水準に達し、インフレ率が2%に上昇し、しばらくの間2%をやや上回る軌道にのるまで、現行の政策金利の目標レンジ(0～0.25%)を維持することが適切と見込んでいる  
・今後数ヵ月間、少なくとも現在のペースで米国債とエージェンシーMBSの保有を増額する※  
※国債を約800億ドル/月、エージェンシーMBS(不動産ローン担保証券)を約400億ドル/月購入
- イングランド銀行(BOE)、金融政策委員会を開催  
・政策金利(0.10%)の据え置き  
・資産買入れ枠の拡大(総額7,450億ポンド⇒8,950億ポンド)を決定
- 6日 ○総務省、9月の家計調査(二人以上の世帯)を発表  
実質消費支出は前年比△10.2%と12か月連続の減少、季調済前月比は+3.8%と2か月連続の増加  
基調判断は「一年前と比べた9月の世帯の消費支出は、前年の消費税率引き上げ直前の駆け込みからの反動もあり、減少幅が拡大。8月と比べると、社会経済活動のレベルが引き上げられている中で、教養娯楽や食料が増加となる等、持ち直しの動きもみられるが、新型コロナウイルス感染症の影響は続いており、引き続き今後の動向に注視が必要」とし表現を変更
- 厚生労働省、9月の毎月勤労統計(速報)を発表  
現金給与総額(共通事業所系列)は前年比△1.3%(うち所定内給与は同+0.1%、所定外給与は同△13.4%、特別給与は同△15.8%)となり6か月連続のマイナス
- 米労働省、10月の雇用統計を発表  
非農業部門の雇用者数は前月比63.8万人増、過去2か月分は修正(9月分は同67.2万人増に上方修正(+1.1万人)、8月分は同149.3万人増に上方修正(+0.4万人))  
失業率は6.9%と前月(7.9%)から低下
- 7日 ○中国海関総署、10月の貿易収支を発表  
貿易収支は+584億ドルと8か月連続の黒字、輸出は2,372億ドルで前年比+11.4%と5か月連続のプラス、輸入は1,787億ドルで前年比+4.7%と2か月連続のプラス
- 9日 ○内閣府、令和2年第16回経済財政諮問会議を開催  
議事:(1)金融政策、物価等に関する集中審議
- (2)グリーン成長に向けた投資・イノベーション
- 内閣府、9月の景気動向指数(CI)(速報)を発表  
先行指数は92.9(前月差+4.4ポイント)で4か月連続の上昇、一致指数は80.8(前月差+1.4ポイント)で4か月連続の上昇、遅行指数は92.2(前月差+0.9ポイント)で3か月ぶりの上昇、基調判断は「下げ止まりを示している」とし据え置き
- 10日 ○内閣府、10月の景気ウォッチャー調査を発表  
景気の現状判断DIは前月差+5.2ポイントの54.5となり6か月連続の上昇、先行き判断DIは前月差+0.8ポイントの49.1となり3か月連続の上昇  
景気現状の基調判断は「新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、着実に持ち直している。先行きについては、感染症の動向を懸念しつつも、持ち直しが続く」とし据え置き
- 財務省、9月の国際収支状況(速報)を発表  
経常収支は1兆6,602億円、前年比+676億円(黒字幅拡大)で75か月連続の黒字
- 東京商工リサーチ、10月の全国企業倒産状況を発表  
倒産件数は624件(前年比△20.0%)4か月連続の前年比マイナス、負債総額は783億円(同△11.5%)、倒産企業の従業員数は2,290人(同△33.4%)、上場企業倒産は0件
- 11日 ○国土交通省、9月の建設工事受注動態統計を発表  
公共工事受注額は前年比+11.5%で2か月ぶりの増加
- 日本銀行、10月のマネーストック(速報)を発表  
M2は前年比+9.0%、M3は同+7.5%、広義流動性は同+5.4%
- 12日 ○内閣府、9月の機械受注統計を発表  
民需(除く船舶・電力)は季調済前月比△4.4%と3か月ぶりの減少  
基調判断は「機械受注は、下げ止まりつつある」とし据え置き
- 日本銀行、10月の企業物価指数(速報)を発表  
前年比△2.1%となり、8か月連続のマイナス
- 米労働省、10月の消費者物価指数を発表  
総合指数は前年比+1.2%、前月比0.0%、食品とエネルギーを除いたコア指数は前年比+1.6%、前月比0.0%
- 英政府統計局、2020年7-9月期のGDP(速報)を発表  
実質GDP成長率は前期比+15.5%、年率+78.0%
- 13日 ○東日本建設業保証会社等、10月の公共工事前払金保証統計を発表  
公共工事請負金額は前年比△0.4%で2か月ぶりのマイナス
- 16日 ○内閣府、2020年7-9月期のGDP(1次速報)を発表  
実質GDP成長率は、季調済前期比+5.0%(年率換算+21.4%)となり、4四半期ぶりのプラス成長  
名目GDP成長率は、同+5.2%(年率換算+22.7%)となり、4四半期ぶりのプラス成長  
GDPデフレーターは、同+0.3%となり7四半期連続のプラス、前年比は+1.1%と7四半期連続のプラス
- 17日 ○米連邦準備制度理事会(FRB)、10月の鉱工業生産を発表  
総合は季調済前月比+1.1%

## 日誌

(11 月 中)

<p>○米商務省、10月の小売売上高を発表 総合は前月比+0.3%、自動車・同部品を除くと前月比+0.2%</p> <p>18日 ○財務省、10月の貿易統計（速報）を発表 輸出は鉱物性燃料、船舶等が減少し、前年比△0.2%の6兆5,661億円、輸入は原油、液化天然ガス等が減少し、同△13.3%の5兆6,932億円、貿易収支は+8,729億円で4か月連続の黒字</p> <p>○国土交通省、9月の建設総合統計を発表 公共工事出来高は前年比+6.8%で、18か月連続のプラス</p> <p>20日 ○総務省、10月の消費者物価指数を発表 生鮮除く総合は前年比△0.7%となり、3か月連続のマイナス</p> <p>25日 ○政府、10月の月例経済報告を発表 景気の基調判断を「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。」とし表現変更</p> <p>27日 ○内閣府、令和2年第17回経済財政諮問会議を開催 議事：（1）マクロ経済運営について （2）経済・財政一体改革における重点課題（社会保障・文教）</p> <p>30日 ○経済産業省、10月の商業動態統計を発表 小売業販売額は前年比+6.4%で8か月ぶりの増加、季調済前月比は+0.4%で2か月ぶりの増加</p>	<p>基調判断は「横ばい傾向にある小売業販売」とし据え置き</p> <p>○経済産業省、9月の鉱工業指数（速報）を発表 生産は季調済前月比+3.8%、出荷は同+4.6%、在庫は同△1.6% 基調判断は「持ち直している」とし据え置き</p> <p>○国土交通省、10月の建築着工統計調査を発表 新設住宅着工総戸数（原数値）は、70,685戸（前年比△8.3%）と16か月連続の減少、季調済年率は80.2万戸（前月比△1.6%）と3か月連続の減少</p> <p>○中国国家统计局、11月の製造業PMI（購買部担当者指数）を発表 総合指数は52.1ポイントと前月（51.4）から上昇</p> <p>東証株価指数（TOPIX）第1部（終値） 月間最高値 1,786.52（27日） 〃 最安値 1,607.95（2日）</p> <p>日経平均株価（終値） 月間最高値 26,644.71円（27日） 〃 最安値 23,295.48円（2日）</p> <p>東京外為市場（ドル・円相場、銀行間直物、17時時点） 月間最高値 103.43円（6日） 〃 最安値 105.40円（11日）</p>
---	---